

公益社団法人船橋青色申告会 会長賞

未来を守るヒーロー

船橋市立飯山満中学校

第一学年

金山 七望

私は何回ため息をついただろう。この暑い季節に原稿用紙を机の上に置き、ペンを持たまですつと悩んでいるものがある。それは税の作文だ。参考のために去年受賞した人たちの作文を読んでみる。どれも素晴らしいもので、「税金が私を救ってくれた」などと、税金をヒーローのように例えているものが多かった。もちろん私も税金の凄さは知っているつもりだが、警察や消防は無料で受けられるサービスだという感覚もある。

机の前でしばらく考えていると、ふと思いついたことがあった。私がまだ低学年だったときのことだ。学校に女の子が来てくれて、税について話を聞く授業があった。そのときに、なぜ一生懸命働いたお給料から税金を集めるのかというと、みんなが笑顔で健康に楽しい生活を送れるためだ、と教えてもらった。

話を聞き終わり、振り返りの用紙に私は「どうして笑顔で楽しい生活をして欲しいのにお金を取るんだろう。変だな」と書いた。それを見た女の子が「確かにそうだね。お金を取るなんておかしいよね。でもね、もう少しお姉さんになったら税についてもっと詳しく勉強するんだよ。それまでに少しでも興味を持つてくれると嬉しいな。税金はヒーローなんだよ」と優しい顔をして言った。その時には意味がよく分からなかったけれど、あのようなことを思い出すとペンが勝手に動き始めた。

税金には様々な種類があり、約五十種類と言われている。その一つ一つに大切な役割があり、誰もがみな税金でまかなわれているものに支えられて暮らしている。緊急時に助けられる警察や消防は代表的なものだ。普段通りに生活していればお世話になることもな

いので、税金をおさめることにデメリットの感情が強くなってしまう。しかし考えてみたら、緊急事態はいつ起こるかわからないし、誰にでも起こる可能性はある。税金は高いと考えがちだが、広くみんなから集めたお金によって、命を救ってもらえるかもしれないのだ。またこんな考え方もできる。将来自分が働いたお金の中から税としておさめたとして色々な事情で働けなかったり、お金が無くて生活に困難な人たちの暮らしを少しでも豊かにしてあげられる、その助けができるということだ。お金に困っている人にとっては、ピンチを救ってくれるヒーローのような存在だということもよく分かった。少し高いお金を取られるがその分誰かを救って笑顔にできると考えれば、あまり悪い気はしなくなるだろう。

今回税について自分なりに調べたり思い返したりした。まだ知らないことや、仕組みなど難しく理解できていないこともあるが、それ以上に納得できた部分もたくさんあった。より考えを深めることができた今の私なら、小さかった頃の私にこう言えると思う。「税金はやっぱりみんなのヒーローなんだよ」と。